

# 友の会だより

令和7年  
3月  
No.55

秋田県立博物館友の会 〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山52 Tel 018-873-4121 Fax 018-873-4123 E-mail : info@akihaku.jp

## 令和6年度友の会活動報告／友の会からのお知らせ

### 令和6年度 県外研修旅行

#### 「国立科学博物館と日本科学未来館を巡る」

令和6年9月26日(木)～27日(金)

参加者 10名(会員以外の参加者含む)

9月26日～27日の1泊2日で県外研修を行いました。今年度の県外研修計画はこの1回のみで、コロナ禍以来数年ぶりの設定となりました。目的は国立科学博物館と日本科学未来館で学ぶことでしたが、会長・副会長の声掛けで何とか10名に達することができました。できるだけ参加費を抑えようと、JRの手配は「大人の休日倶楽部パス」等の利用を前提に各自手配として、パス利用期間に設定しましたが、時期の検討が必要かもしれません。人数の関係もあり、各自自由見学となりましたので、「友の会」としてのメリットを考える必要がありそうです。

国立科学博物館はそのスケールの大きさに圧倒されました。以前NHKで特集されたこともあり、お目当ての「フーコーの振り子」や「フタバスズキリュウ」の骨格標本を見ることができました。ミイラ化した江戸時代の女性をもとに、当時の食生活から身体特徴まで再現したコーナーには驚きました。日本から出土する鉱石の標本に秋田県産のものが数点展示されていたことに親近感を抱きましたし、ハチ公のはく製の展示には拍手しました。館内の要所要所にボランティア説明員がいましたので、見学内容が事前に絞れば会としての交流もできたかもしれないなあ、と感じました。



ハチ公のはく製展示(国立科学博物館)

日本科学未来館は地球の成り立ちから、現在の地球温暖化と宇宙開発までの壮大なテーマでした。視覚に訴えるコーナーが多く、iPS細胞についても「なるほど」と理解できた気がしたし、温暖化のコーナーは3D画像で美しい画像を見ながら問題の切実さを感じました。期待したドームシアターは、地球の成り立ちは理解したものの3Dながら画質も迫力がいまひとつでバージョンアップが望まれます。小学校の団体見学が多く、昼食会場は2カ所に30分交代で6～7校入っていました。東海からも来ていましたが、素晴らしい施設を利用できる子供たちが恵まれているなあ、とも感じました。

来年度以降も、全国の博物館見学や学びの機会を企画していただきたいと思います。

(幹事 佐藤明正)



国立科学博物館前で記念撮影

### 令和6年度 第2回館内研修

#### 企画展「稲穂の詩～秋田と米づくり～」解説会

令和6年10月26日(土) 午後1時～2時20分頃

参加者 5名

当企画展では、農業に関する歴史・民俗資料、各種標本、米づくりに尽力した先覚者に関する資料等、実に幅広い分野の資料が紹介されていました。そのため、異なる部門の3名の学芸職員がリレー形式で解説を行いました。参加者は解説に耳を傾けながら一つ一つの資料を熱心に見学していたため、気が付いた頃には予定時刻も過ぎており、充実した研修会になりました。

(事務局)



企画展「稲穂の詩」解説会の様子

## 考古ボランティア

令和6年度の考古ボランティアの主な活動は博物館教室開催に向けての準備でした。以下に各教室に向けての活動状況を紹介します。

### ①「土器作り教室」(計7日間)

土器作り教室は恒例行事でその都度好評ではあったものの最終的な出来ばえは毎回あまり満足のいく状態ではありませんでした。焼成途中での器体の破裂、ひび割れ、底部の剥落、細部の欠損等様々な問題点を解決できずにおりました。そこで担当職員とメンバーで粘土の選定・調整から乾燥状態のチェック、燃料の火力調整等々の問題点を洗い出しました。試行錯誤の結果、今年度の土器作り教室では殆どの作品が割れずに完成という良い結果が得られました。土器作り作業一連のノウハウが蓄積できた一年でした。

### ②「貝輪をつくる」(計7日間)

令和4年9月の企画展「秋田の縄文遺産」で能代市の柏子所貝塚出土の貝輪の展示がありました。それを契機に貝輪作りの素材としての貝殻の収集活動を継続してきました。本年度は“貝輪素材の産地調査情報収集”というテーマで調査範囲を拡大し、男鹿市船越海岸・安田海岸、三種町宮沢海岸・釜谷浜海岸、能代市浅内海岸・落合海岸と県北部の海岸線を探索しました。普段は訪れることのない海岸線の踏破は、やはり老体にはこたえましたが、雑多な漂着物の来し方に思いを巡らす楽しさも有りました。また、2回目となる博物館教室「貝輪をつくる」も参加者全員が貝輪作りに成功し、盛況裡に終わることができました。

### ③「鹿の角でつくる釣針」(計6日間)

担当職員から博物館教室の新たな目玉として鹿の角による釣針作りを行いたいとの提案があり、令和5年度後半から素材の調達・製作法の情報収集・試作実験等の活動を継続してきました。本年度は素材や道具の

準備から釣針の完成に至るまでの手順を確立して年度末の教室に備えることができました。是非とも恒例の目玉教室に育てたいものです。

(考古ボランティア 佐川義則)



考古ボランティアが試作した釣針の数々

## 古文書整理ボランティア

古文書整理ボランティアでは、引き続き守屋家資料のA群の整理を進めています。古文書を一つ一つ解読して、表題がないものは付けてやり、年代、差出人、受取人、内容などを読み取って、調書に記録しています。調書は館職員がエクセルに入力して、デジタルデータ化し、仮の分類を付けて、最終的な目録編成の準備をしています。冊子型の文書はほとんど終わり、書簡の山に突き当たっています。深い山に分け入って、なかなか出られない状況で、残り何点あるか数えるのが恐ろしいほどです。書簡ですので内容は多岐にわたり、本人にしか分からないような内容も多く、難儀しています。

近年は、古文書を解読してくれる無料アプリがあり、試してみましたが、正答率は3割程度でした。まだまだ人間の手が必要なようです。

(歴史部門 新堀道生)



お互いに知恵を出し合いながら古文書の解読に取り組む

## 秋田古文書同好会

当会の主たる活動は例会です。毎月、第三金曜日、博物館の学習室で開催しています。博物館所蔵の古文書を資料として、各会員（現在 17 名）が解説したペーパーを持ち寄って発表し、協議をしながら正しい読み方を目指します。指導者は博物館の新堀道生先生です。先生からは「くずし字」の成り立ちや読み方、史料の背景、歴史用語の解説など丁寧に解説していただいております。

今年度は「吉井家日記」が教材です。古文書は難解ですが、くずし字辞典を片手に筆順や前後の脈絡を考えながら読み解いていきます。「わかった、できた」という学びの実感は喜びが大きく、会員は達成感や満足感にあふれ更なる意欲も湧いてきます。また、古文書の解説は何よりも記憶力・思考力・想像力を必要としますので、脳の活性化には最適な活動といっていでしょう。

古文書は、その当時の土地と家の履歴であり、生活をしてきた人々の出自や地域の生活の証明になります。それを読むことは、時代を超えて当時の人々と対話しているかのような知的体験になります。「博物館や資料館に展示されている史料を読みたい」、「我が家の古文書を解説したい」、「くずし字の解説能力を高めたい」という方は、ぜひ当会に入会されたいかがでしょうか。希望の方は、博物館の友の会事務局までお問い合わせください。

（秋田古文書同好会 幡宮明貞）



月例会での活動風景

## 地質ボランティア

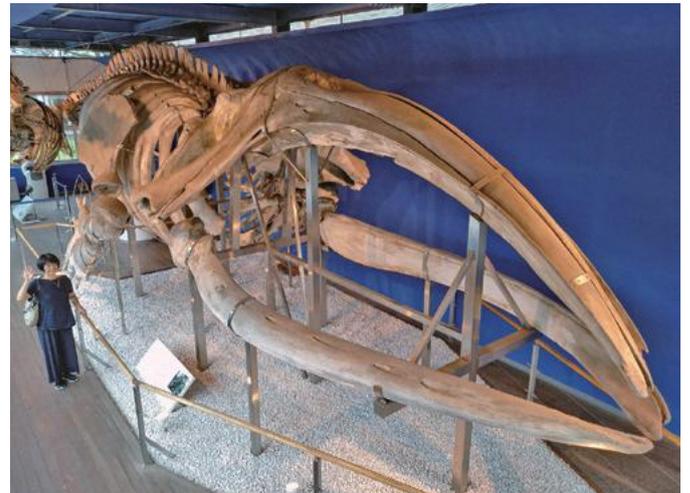
友の会の地質ボランティアの活動には、博物館職員を補助して、博物館教室（化石と地層の観察会など）や学校連携（セカンドスクールや出前授業など）を手伝うことがあります。昨年（2024年）11月には岩見三内中学校の出前授業に同行しました。この出前授業は「岩

見三内の自然に学ぼう」というテーマで、かつて岩見川で採集されたクジラの肋骨化石などをもとに、地域の地質を学習する授業でした。私はかつて博物館職員としてこの化石の受け入れに関わったこともあり、授業ではクジラ化石の解説を担当しました。このクジラ化石は、昭和 63 年（1988 年）に、地質調査していた東京大学の学生が岩見川の河床から発見したもので、長さ 2 m を超える大きな肋骨です。含まれていた地層と化石の特徴から、およそ 300 万年前のセミクジラ類と推定されています。

授業では、実際に岩見川の河原へ出かけて、化石発見場所付近の崖の地層を観察し、その後教室にもどって、化石を見ながら解説を行いました。その際に、私が以前に東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムで撮影した、全長 17m のセミクジラの全身骨格写真を利用して、クジラの大きさを実感してもらうことができました。

このように、各地の博物館や資料館を見学して得た知識や画像が、いろいろな方面で活用できることがあります。これは自分の専門以外でも同様であり、友の会活動を利用して博物館等の見学の機会を増やすこともたいへん有効だとあらためて感じました。

（地質ボランティア 渡部 均）



セミクジラの全身骨格  
（東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム）

## 植物標本整理ボランティア（スマレ会）

令和 6 年度のボランティア活動は例年通り実施できました。生物作業室では、さく葉標本を台紙に貼付したりラベルデータのデジタル化などを行いました。収蔵庫内では、標本の整理や配架の他、昨年度より標本の再同定、登録番号付け、ラベルデータのカード記入など新しく取り組んだ作業も勉強しながら楽しく行いました。ただし会員の高齢化に伴い、少し暗いと標本棚の小さい表示が見えにくく、懐中電灯を使って配架をするようになりました。

館外研修も同様に足腰やバランス感覚が衰えてきているため、事故や怪我を防ぐよう平地が多い場所を選びました。にかほ市冬師では湿原植物、秋田市高尾山では春植物、一つ森公園では植栽された庭木、添川の旭川護岸公園ではタデ科植物を観察しました。この他、前年訪れた井川町坂本堤周辺や三種町琴丘中央公園も季節をずらして再度行き、充実した研修を実施することができました。観察会の記録は間もなく完成予定です。

(スマレ会 人見和男)



ヒメシオン (令和6年9月撮影)

## ボランティアスタッフ募集中!

現在、友の会では5つの団体が資料整理ボランティアに取り組んでいます。そのうちの3団体で、次の通り新規のボランティアスタッフを募集しております。各ボランティア団体の活動内容などは、本紙の掲載記事(活動報告)を参考にしてください。

- なお、全ての団体に共通する応募条件としては、
- ・友の会の会員であること。(新規入会者も可)
  - ・所定の活動日に参加できること。
- などが挙げられます。

興味をお持ちの方は、事前に活動をご見学の上、参加をご検討ください。見学やボランティア応募に関するお問い合わせは、友の会事務局(博物館普及・広報チーム)までお寄せください。この機会に、新たな仲間作りもしてみませんか?

## 【植物標本整理ボランティア (スマレ会)】

- ①活動日時 毎週火曜(年間40日程度)、  
午前9時30分～正午
- ②活動場所 3階 収蔵庫、生物研究作業室、  
その他(野外での観察会など)

## ③応募条件

- ・植物標本の作成、及び整理(データ整理)に興味・関心がある人。

## 【秋田古文書同好会】

- ①活動日時 第3金曜、午後1時30分～3時30分
- ②活動場所 1階 学習室
- ③応募条件  
・古文書への興味・関心がある人。

## 【考古ボランティア】

- ①活動日時 概ね第1・3日曜、  
午前10時～午後3時頃
- ②活動場所 1階 実験教室、その他(野外)
- ③応募条件  
・考古学または先史時代(特に縄文時代)の遺跡・遺構・遺物に興味のある人。  
・縄文時代の道具の復元・制作に興味のある人。  
・好事家。

## 令和7年度役員会・総会のご案内

同封の事務連絡にも記載の通り、新年度の役員会・総会を下記の日程で開催します。「今まで一度も出席したことがない」という方も、どうぞお気軽にご出席ください。なお総会終了後には、企画展「昭和のアキター百年のくらしをつづる」の展示解説会も予定しています。

【期日】 令和7年4月27日(日)

【会場】 県立博物館1階 学習室  
役員会：午前10時30分から  
総会：午後1時00分から

## 友の会「研修旅行」のご案内

令和7年度の研修旅行は県内のみの計画となります。詳しくは同封の実施要項をご覧ください。

第一弾は、矢島方面を鉄道とバスでめぐる1泊2日の県内研修ツアーです。矢島の歴史探訪と自然観察をじっくりと堪能できる2日間となりますので、ぜひご家族やご友人をお誘い合わせの上、ご参加いただければ幸いです。

なお第二弾として、秋田市内の資料館・美術館見学(日帰り)を秋頃に計画しています。こちらは、後日改めて詳細をお知らせします。

(事務局)